

ふれあい新聞
 (11号) 平成元年7月5日 (田中野田町内会)

運動会を終えて

隔年ごとに開催している町内の春の運動会が、今年はさる4月29日に開催されました。心配していた天候も快晴に恵まれ幼児からお年寄りまで多数参加していただき盛会裡に終了することができました。皆様方のご協力に対し、厚くお礼申し上げます。なお、この運動会開催にあたっての収支の概要は次の通りでありましたのであわせて、報告いたします。(町内会長)

平成元年度運動会収支概要

収 入	支 出
寄付金 武田節子 47,000 ほか9名	運営費 打合せ会、グランド整備、案内状、横断幕等 37,763
町内会負担金 238,872	接待費 老人会、弁当、その他 14,390
	消耗品費 救急薬品、文具類、石灰、その他 21,707
	賞品代 福引賞品を含む 212,012
合 計 285,872	合 計 285,872



《わが郷土を語る》

(その9)

区画整理で川舟が消える

中尾佐之吉

もう既に数も少なくなっているが、今まで用水路に浮かんでいた川舟も、区画整理でその必要が完全に失われて、近い将来消えてなくなる筈である。この地方の川舟は、末尾の写真で見られる通りである。この川舟は、かつては各農家に一そうづつもたれていた。そして今のように自動車の普及していなかった時代には、なくてはならない運搬輸送用具であった。その昔、荷車のなかった時代、あっても狭い農道しかなかった頃は、用水路を舟によって物資を運んでいたのである。

用水路は水田稲作にとってはなくてはならない水の通路で、この地方では四方にめぐらされていた。従って川舟もこの水路を利用することによって、近隣の村はもとより岡山市内へも物を運ぶことができた。用水路に架っている橋の桁を高くしているのは、夏の用水期に水嵩が増しても川舟の運行を妨げないためである。

川舟は巾1米、長さ5米くらいの小さなものであるが、稲の収穫期に初でカマス40袋分を運んでいたそうだから(和氣輝明さんの話)1トン以上の積載能力をもっていたのである。

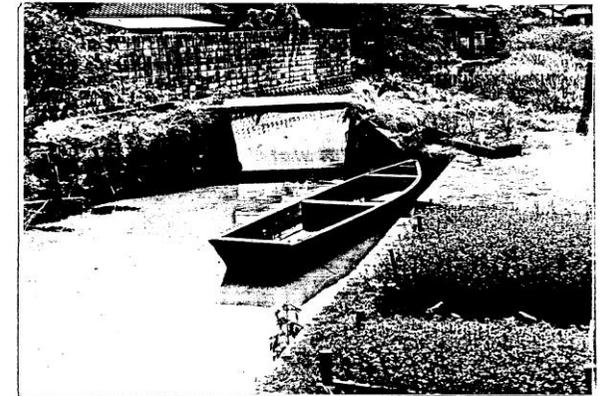
川舟は主として運搬用に使われていたのであるが、ときには川での魚やひしの実(注1)採取に利用されたし、子供達の川遊びにも使われた。このことは(『ふれあい新聞』第5号で和氣加太志さんが『野田川の今昔』で詳しく述べられている。)

ところで、この川舟の新造費用であるが、昔から米10俵(60kg×10)といわれていた。今の米の値段で換算すると20万円くらいになるが、現在果たしてこのような価格でできるのだろうか。

区画整理で田中野田が大きく変貌する。昔の姿が次第に消えてゆくのはやむを得ないとしても、昔の面影や自然も残せるものなら残したいと思う。

この川舟も一艘くらいは、陸でそのままの形で残すようにし

たいものである。公園の一隅にでも保存したらどうであろう。(注1)『ヒシ科の一年生水草。池、沼、河川に自生。根は泥中にあり、葉は水面に浮き菱形で、葉柄は浮囊状にふくらむ。夏白色四弁の花を開き角状の突起ある堅果を結ぶ』(広辞苑より)とある。しかし野田川には今は見られない。川が自生を許さなくなったからである。寂しい限りである。



《皆様へお願い》

変貌する『田中野田』を写真に

区画整理でわが郷土『田中野田』が大きく姿を変えつつあります。平成元年度には、横野良典さん(3組)の西を通る区画街路、太田啓一さん(7組)の西方面の区画街路や御南中近くの水路、田中水門の改築などが行われるようです。

また、既設の区画街路には上水道管も埋設されますが、さらに下水道の管も近いうちに埋設されると聞いています。

とにかく、昔の姿がなくなろうとしているのです。今までの田中野田を少しでも多く記録に残しておきたいと思うのです。どのような角度でもよろしいから、皆さんのカメラに収めておいていただきたいのです。協力方よろしくお祈りします。後日になって“10年前の田中野田”“20年前の田中野田”の写真展ができたらと思うのです。(町内会長)